

朝岡興禎編『古画備考』三十一「浮世絵師伝」(嘉永三年四月十七日起筆)

菱川 藤原姓

某【七右衛門】

道茂【吉左衛門入道光竹、房州平郡、保田町住、家業縫箔、其業精妙也、寛文二年二月十五日没】

浮世画初祖

師宣【吉兵衛入道友竹、生於房州平郡保田町、始縫箔師、後以作画一家、

二男

某正之丞【居所ノ考ニ、貞享四年板、江戸鹿子ニ、村松町二丁目、

元禄二年板江戸図鑑、及五年板買物調方三合集覽ニ、橋町トアリ
一説堺町横丁又伝馬町二丁目ト云、是等転宅ノ所ナルベシ】

成徳曰、此書ニ師宣正徳中ニ没ストアルハ誤ニシテ、元禄七年ニ終リシ事、
姿絵百人一首ト云ル本ニ明力ナリ、其序ニ云、

小倉色紙の後をしのびて、様々の像讚名筆をふるひ【中略】風狂したる形を
うつして、彼立圃が、休息歌仙のすさみをしのび【中略】かの菱川が、古人
に成し記念なれば【下略】同跋云、名を広うし、道をたつるは、いづれにか
はる所なきにや、爰に菱川氏師宣は、自然と画図に奇を顕はして、世に鳴事
を得たる歟、此道すける人の為に【中略】百画に残して、続子師房家に伝へ
つ、然るに、予多年をちなみ、月久して乞求、梓に鏤めて、世上の目を悦ば
しむるのみ、元禄八曆乙亥四月吉辰、大伝馬町三丁目、木下甚右衛門 板、

菱川師宣墓八、小梅常泉寺ニアリ、俳人シンジユ見付シ由、此人元來磁器ノヤ
キツギヲ業トシテ、母ヲ孝養セシ由、俳人ノ鬼簿ヲ撰ミ、甚其伝ニ委シキ由、
斎斎毛親シクセシ由、文政七、十一、廿、聞、坦、
寛文十二年板、武家百人一首、画菱川吉兵衛、歌東月南周筆

師房【吉兵衛、始吉左衛門、江戸鹿子、及図鑑三合集覽ニ、吉左衛門トアリ、
父師宣ト同居、始画師、後紺屋ヲ業トス】

師永【沖之丞、又作之丞、江戸鹿子、図鑑】

一説ニ、造酒之丞、父ト同居ス、彩色ニ名ヲ得タリ、
浮世画系図附録ニ造酒之丞、師宣ノ娘、贅ニ取シ也、彩色名人ト云々

師喜 印本一枚摺ニ、師房弟ニ師喜アリ

実子 重嘉 佐次兵衛、家業紺屋

男 某 弥右衛門

師宣ノ血脈、六代目ニ至テ絶ユ、今養子ヲ以テ家ヲ続、房州保田町ニアリ、
是七代目也、女子他家ニ嫁テ、生メル血脈ノ者、今ニ同所ノ他家ニアリト也、

洪鐘一口

寄進施主

菱川吉兵衛尉

藤原師宣入道友竹

元禄七甲戌歳 正月吉日

右房州保田町、医師渋谷元灌ニ問テ、其实ヲ記ス、元灌ハ菱川ガ親族也、

天保六年二月廿二日、写山話、房州太平寺ノ鐘ト云、同歟、別歟、

(美人画の模写あり、その解説に)

絹小立

菱川風、エリ白朱墨 一面波浪、裾の方浅黄、菊色

師宣ト申テ可然、著物裏朱、帯緑青の上金七宝

